

「ガスとお湯の50年」プロジェクト趣旨

ガス瞬間湯沸器の誕生から概ね50年、ガス給湯機の優良住宅部品認定から概ね45年が経ちました。

この間、お湯の用途は台所から風呂・シャワーへ、さらに床暖房や浴室暖房乾燥などへ拡大してまいりました。お風呂（入浴）が銭湯等から内風呂へ変化していく中で、ガスで沸かしたお湯は、社会や消費者のくらしの要望に応え、好みの温度で複数個所の給湯が可能となり、快適に利用できるようになりました。また、ガス給湯機器や関連住宅部品の安全性、省エネ性等の性能も格段に向上し、私たちの住生活を豊かにしてきました。

このお湯利用の変化やガス給湯機器等の性能向上は、ガス供給など社会インフラ整備に加え、当該機器等の技術開発や普及がもたらしたものであり、我が国の住宅産業の成長の一端を担った社会的意義、歴史的価値があるものと考えています。

一方で、入浴は、私たちの住生活に欠かせなく、古来より変わらない日本人のアイデンティティとなり、ガス給湯機器等の開発にも大きな影響を与えています。

今後の我が国では、少子高齢化の急速な進展、災害の甚大化、エネルギー問題の深刻化、情報化・デジタル化等の技術進化、シェアリングエコノミー等の新たな住まい方の増加等が見込まれ、それら諸課題等への対応が求められます。

また、より豊かな住文化を育んでいくためには、先人たちが築いてきた歴史や知見を正しく理解し、より多くの人に知ってもらい次世代へ受け継いでいくことは、私たちの役割と考えています。

「ガスとお湯の50年」プロジェクトでは、住宅産業の発展、ガス給湯機器の開発、普及等に関わる学識者、関係事業者、建築家等にご参画いただき、ガスとお湯の歴史を技術史、住生活史の観点から読み解くとともに、お湯を使う関連住宅部品の発展についても振り返ることにより、今後のさらなる住生活の充実、機器開発の将来像を展望します。